

◇岐阜・高山で見た

建設業の複業化

飛騨高山地域は地域の事はどう振返る。

93・3%を森林が占めている。そんな地域の林業関係者がこう言った。

「公共事業が減って建設業は仕事がないだろう。しかし、林業にはたくさんある。ぜひ手伝ってほしいが」

2008年1月、林業と建設業が連携して作業道の整備や間伐を行う「林建協働」をテーマに開催した建設トップランナーフォーラムin岐阜

「このフォーラムがきっかけだった。たかやま林業・建設業協同組合の長瀬雅彦専務理

技術を欧州に学ぶ

たかやま林業・建設業協同組合は、地域の建設会社17社と飛騨高山森林組合の計18社で構成し、10年1月に発足した。国

や県の支援制度を活用しながら、作業道の整備や間伐の在り方を林業の先進国である欧州に学び、

営林を中心にした仕事の受注を拡大している。欧州の林業を学ぶことで得たものは大きい。作業道の整備一つとして

も、さまざまな配慮が凝らされていた。

<下>

道の両側の横断方向に、縦断方向より急な勾配を付けることによっ

て、効果的に路外に排水の具体的なノウハウを、わたくし間伐に使われ、

激しい降雨があつても道が壊れないようにしたり、ドイツから専門家を招き、斜面に雨

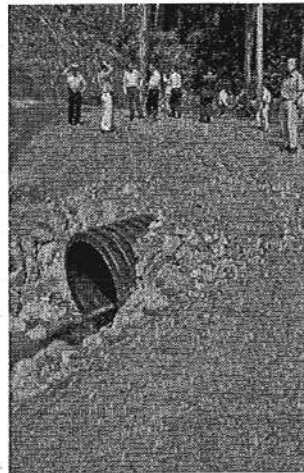
水が流す場合でも、直線に流すのではなく、石に流すのではなく、石に

たかやま林業・建設業協組の林建協働 効率的な林業に転換へ

魚などの生態系にも配慮し、水路などを整備する。いわば、水のマネジメン

トだった。また、どんな地形でも、切り土と盛り土を均整させ、残土を

魚などの生態系に配慮し、管渠を埋設した作業道



いない。しかし問題もある。現状では、工事完成後でなければ請負金額が決まら

ず、支払いを待つことになり、資金繰りが苦しくなる。

また、作業道は建設業、間伐は林業と、作業の内容によって労災の適用が変わることなども問題だ。

今後の課題について長瀬氏は、森林技術者や技能者の養成を挙げる。森林の施策集約化など事業

の在り方を改善していくために、森林の所有者に対する説明能力を高めていく必要がある。

(地方建設記者の会、建通新聞社中部支社・比良博行)

中長期でコスト管理

長瀬氏は建設業の林業への参入の在り方について「中長期的な時間をかけて建設業だからこそで

在し、森林の姿が永続する恒続林をつくること

が基本な考え方だった。間伐も、そういった考え

コスト化だ。長瀬氏はこう話す。

「低コスト作業路網といふと、作業道を安くつ

コスト化だ。長瀬氏はこう話す。

「低コスト作業路網といふと、作業道を安くつ